

ちょっと気になる八王子マガジン

# は ちど び。



2023年 清風号

## No.55

Take Free

〈ご自由にお持ちください〉



南浅川から高尾山に沈む夕陽を望む

### 特集

# 夕焼小焼と八王子

恩方で生まれた名曲の秘密

## 中村雨紅の見た夕景を辿って

市内のここにもあそこにも

## 「夕焼小焼」のあるところ

とっておきの夕景がここに

## 八王子の夕焼スポット8選

元気印の市民団体紹介

コラム 八王子の民俗誌②

コラム 八王子自然探訪⑦

私の本はこうして生まれた 其の五十五

夕焼け小焼けの会

江戸時代の地域変化 ― 十二社の日吉山王権現

恩方地域を歩く

『松姫 夕映えの記 ― 八王子とともに ―』 前野 博 著

佐藤 広

粕谷 和夫

八王子のみならず、日本中、さらには世界にまでそのメロディが知られている童謡「夕焼小焼」。この曲を作詞したのは恩方に生まれた詩人・童謡作家の中村雨紅です。日本の夕景を、これほどまで端的に、きれいに映し出した表現は、いかにして生まれたのでしょうか。雨紅の生い立ちとともに、関係する方々の証言から読み解きます。

— 恩方で生まれた名曲の秘密

# 中村雨紅の見た夕景を辿って



▶ 中村雨紅  
(八王子市郷土資料館所蔵)

## ♪ 児童文学との出会い

中村雨紅は本名を高井宮吉といい、1897（明治30）年1月7日、宮尾神社宮司であつた高井丹吾、シキの三男として、神社の社務所で生まれました。生まれた直後に泣かなかつたので、無事育つかわからなかつたことから、出生届は遅れて2月6日に出されています。

1909年に上恩方尋常小学校（現恩方第二小学校）を卒業。そして1911年に恩方村報恩高等学校を卒業しています。1916（大正

5）年に東京府立青山師範学校を卒業後、東京府北豊島郡日暮里町の第二日暮里小学校の教師になりました。20歳のときに、お婆の家である中村家の養子になり、翌年、開校したばかりの第三日暮里小学校に転動します。

師範学校で学んだ理想を抱いて教師の道を進んだ雨紅ですが、子どもたちの現実はその理想とはかけ離れたさうなものでした。日暮里小学校で対峙したのは、近所の火葬場にオモライに行くために授業中にいなくなつたり、牛肉や葱を盗んでは生のまま家庭の片隅で食べたなどする貧

しい子どもたち。そんな児童を前に、道徳心や豊かな感受性、情操教育の必要を感じるようになり、このころから学級文集や童話の執筆を始めるようになります。

当時は「赤い鳥」や「金の船」（後に「金の星」に改称）などの児童文芸雑誌が次々生まれていた時代。1921年に雨紅が高井宮のペンネームで「金の船」に投稿した童謡「お星さん」、童話「お別れの先生の話」が童謡詩人の野口雨情に絶賛され、雨紅は大いに喜びます。

これが遠因となつたのか、ペンネームは高井宮から中村

雨紅に置き換えられます。ちなみに「雨」の字は、慕つていた野口雨情の名前から1字をもらい、「紅」はそれに染まる、似通うという意味を込め、当時の姓の中村の下につけたといえます。

## ♪ 「夕焼小焼」誕生

雨紅が日暮里小学校で教壇に立つていたころ、恩方地域にバスはまだ通つておらず、実家に帰るためには八王子駅から4里、16キロメートルの道を歩いていました。道すがら、ちょうど



◀ 師範学校時代に描いていたスケッチ



▶ 師範学校で教授法をまとめたノート



陣馬街道の切通し辺りで日が暮れて、家路につく子どもたちの姿とともに、恩方方面に夕焼けが見えたことがあったそう、この情景が「夕焼小焼」の原風景になったと後に雨紅は語っています。

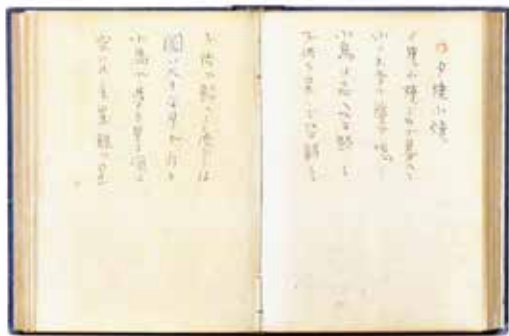
「夕焼小焼」が完成したのは1919（大正8）年ころ。草川信が作曲し、世に出たのは1923年なのですが、直後に起こった関東大震災により、せつかく出版した楽譜は

ほとんど焼けてしまいました。このとき、わずかに残った13部ばかりの楽譜を元に、同年に結婚した千代子の妹、下田梅子がオルガンで弾いて歌い継ぎ、人から人へ口コミで広められていきました。

「夕焼小焼」を発表したころは、中村雨紅の身辺でも大きな変化がありました。千代子との結婚で、中村家との養子縁組が解消し、姓は高井に戻ります。1924年には長

男の喬が誕生。

1926年に日本大学高等師範部を卒業し、神奈川県立厚木実科高等女学校（現厚木東高校）の教師となつて



▲中村雨紅直筆の「夕焼小焼」の歌詞（上）と「夕焼小焼」の原稿（下）（八王子市郷土資料館所蔵）



### 中村雨紅の人柄

厚木に引越します。雨紅は高校の国語教師として、1949（昭和24）年に52歳で退職するまで教壇に立ち続けました。

1927年には長女の縁が誕生したのですが、終戦後の混沌とした時代だった1946年、長男の喬が22歳の若さで急逝してしまいます。悲痛な出来事を抱えながらも、雨紅は作品を発表し続けます。

中村雨紅が大叔父にあたるという導娯愛子さんは、小学生のころによく恩方の家に来ていた雨紅の姿を鮮明に覚えています。

「雨紅さんはぶつきらぼう

## 中村雨紅 作品集Ⅰ

### お星さん

キラキラ お星さん  
 ゆふべも キラキラ  
 こんやも キラキラ  
 御苦勞様よ

（1921年「金の船」2月号掲載）

### ふる里と母と

今も帰ればふる里の  
 岡に残るよ傘松よ  
 村のはすれの閻魔堂  
 ネンネコ サラサラ トントロリ  
 川の瀬音も子守歌。

おいしそうでも蛇苺  
 きれいな実でも牛殺し  
 その葉取るなよ実を取るな  
 いつもやさしくあたたかく  
 今も聞える母の声。

（1965年作、『日本詩謡集1967年版』に  
 発表。1968年、海沼実作曲）

で、気取らない、気さくな方でした。厚木にいたときも、ちよくちよく家に来て、10日くらい泊まっています。玄関からでなく裏口から、着替えを風呂敷に包んで入れた竹竿をかついできて『おい、俺が来たぞ。誰かいねえのかあ』なんて言っている。出した食事を『うまい、うまい』っておいしいそうに食べていたのもよく覚えています」

また、家にあつたツバメの巣からひなが落ちたときは巢に戻してあげたり、庭に柿の実ができた際は「柿の実、全部採るなよ。鳥のためにとっておけよ」と導望さんに忠告するなど、自然を愛した人でもありました。「雨紅さんといえ、やはり優しくしてくれた印象がありますね」と振り返る導望さん。

導望さんによると、恩方での雨紅は、もの思いにふけて目の前の山を眺め、栗拾いや野菜採り、飼っていた山羊



▲導望愛子さんと勝利さん

の乳を飲んだりして、のんびり過ごしていたといえます。雨紅にとつて、故郷の恩方は、心安らぐ場でもあつたのでしよう。

導望さんは「恩方に住みたい、住みたい、とよく言っていましたね。ここに墓を残したい、ともよく言っていました」と振り返ります。

恩方を愛し、八王子を愛した雨紅は、市内では母校の恩方第二小学校をはじめ、恩方第一小学校、恩方中学校、さらには上川口小学校、第十小学校、陶鎔小学校の校歌も作詞しています。

夕焼小焼の碑

「口数が少なくて、自分のことを話すのが大嫌い。何か話すときにもボソツと話している」と導望さんが語るように、雨紅は周囲に自分のことをあまり多くは語らなかつたようです。厚木で教師をしていた際には、自ら「中村雨紅」の名前を出さなかつたため、ほとんどの生徒が退職したあとで「夕焼小焼」の作詞者と知つたというほど。

終戦から10年後、地元の恩方地域でもだんだんと雨紅のことを知る人が少なくなつていたころ、雨紅のことを慕う恩方地域のメンバーにより発足したのが「雨紅会」というグループです。

雨紅会の代表を務めたのは、古くから関わりがあつた小川又一郎さんでした。青山師範学校で雨紅と同期だった松崎六三郎さん、合併前の恩方村村長を務めていた尾崎知三さん、恩方の文化活動に関わっていた菱山栄一さんらとともに、中村雨紅が還暦と

中村雨紅 作品集2

十か十一残しとけ

柿の実とるなら皆とるな  
十か十一残しとけ  
毎年よく来る仲よしの  
あの鶉ひよどりが来るだろう  
今年も食べに来るだろう。

柿の実熟れたぞ熟したぞ  
とろけて ほっぺが飛ぶように  
残しておいたぞ鶉よ  
食べて ビヨビヨ笛吹いて  
遊んで行けよ 鶉よ。

狭い庭ではあるけれど  
たった一本伸びている  
私と柿と鶉と  
秋の夕日の茜雲  
今日も楽しい日が過ぎる。

(1968年11月作。斎藤高順作曲。詩と音楽の  
会編『新しい日本の歌』に掲載)





▲「夕焼小焼」の碑の除幕式（八王子市郷土資料館所蔵）

なった1956年、宮尾神社に「夕焼小焼の碑」を建立します。宮尾神社は雨紅の生家であり、碑が建ったのはまさに彼の部屋であった場所だったそうです。これにより、恩方と「夕焼小焼」のイメージが結び付き、広く世に知られるようになりました。

除幕式には新聞やラジオなどのメディアが大挙して訪れ、恩方地域は大変な賑わいに。雨紅は「こんな立派な碑を建ててもらったら、墓などいらない」と涙したそうで、お返しに「恩方音頭」を作詞、恩方文化を大いに盛り上げます。このときつくられ

た「恩方音頭」は、いまでも恩方地区のイベントで使用されています。

1971年11月、雨紅は厚木病院に入院します。恩方からお見舞いの方が来ると、ベッドの上で「毎日（丹沢の向こうの）恩方のほうを眺めているよ」と言っていたそうです。これほどまでに恩方に想いを寄せ続けていた雨紅は、翌年の5月8日、75歳で亡くなりました。葬儀は厚木、埋葬式は恩方で行われ、生前の希望通り、恩方の地に埋葬されました。

♪♪♪ 恩方に生きる 中村雨紅

宮尾神社に「夕焼小焼」の碑を建てた小川又一郎さんは、建碑の際により良い石を探しに埼玉県まで足を運び、



▶除幕式に配られた手ぬぐい（復刻版）

大きな根府川石を選んできたほどの力の入れようでした。その後も宮尾神社のふもと「夕焼小焼」バス停設置や戦時中に供出された興慶寺の鐘の復元にも尽力します。また、1970年には、ぜひ残しておきたいという雨紅の想いを受け止め、興慶寺に「ふる里と母と」の碑も建てています。

そんな姿を見ていた息子の光太郎さんは、「雨紅さんは人が良いおじさんだった。大人しくて自分からしゃしゃり出ることはなかったが、時にはひよひよつと面白いことを言う人だった」と振り返ります。雨紅の人柄を語る時、多くの方が口にする「人の良さ」は、小川又一郎さんのように、ひよつとしたら恩方に住む方々の人柄の表れでもあるのかもしれない。

没後、中村雨紅の語り部として活動していたのは導俎愛子さんの母、リヨさんでした。TVや新聞など、さまざまメディアに向けて、50年にわたって「夕焼小焼」や中村雨紅について解説し続けて



▶小川光太郎さん



▶雨紅がよく座っていた小川家の縁側を前にする光太郎さん

きました。身体が悪くなっても対応し続けてきたというその姿からは、雨紅に対する強い思いと、語り継ごうとする強い意志が感じられます。

中村雨紅が夕暮れ時の陣馬街道の様子を思い起こして描いた1編の詩「夕焼小焼」。それはただ単に陣馬街道の夕陽の景色を切り取っただけの歌ではありません。時を経て、恩方地域は中村雨紅の見えた風景とはだいぶ変わりましたが、雨紅が残した「夕焼小焼」は、「夕焼」を一度

は見たことのある誰もが心に描いている普遍的な風景を切り取っています。

毎日、市内で流れるあの曲は、だからこそ多くの人にとって聞きなじみのある曲となっているのかもしれない。そんな素敵な曲のルーツが八王子、恩方にあること。そのことが今も残る碑や作品、そして導俎さんや小川さんのような雨紅を慕う恩方の方々によって引き継がれているのです。

# 「夕焼小焼」の あるところ

恩方で生まれた名曲「夕焼小焼」。メロディや詩が刻まれた石碑、彫刻作品など、形はさまざまですが、市内には作品世界を体感できるゆかりの地がたくさんあります。多くの市民の心に残る名曲は、こうして時代をつないできたのです。ここではテーマに沿って「夕焼小焼」にまつわる場所をご紹介します。あなたも身近な「夕焼小焼」を探してみませんか（地図は本誌P 8、9参照）。

## 鐘

「夕焼小焼」の歌詞にある「山のお寺の鐘」はどこにあるのか。実は明確な答えはありません。しかも戦争のために1943年、恩方村の寺の鐘はすべて供出され、なくなりました。戦後、20年以上の時を経て、まず観栖寺で梵鐘が復活し、その後宝生寺、興慶寺などでも復活しました。陣馬街道から少し離れた高台の上にある興慶寺や下恩方町の心源院の梵鐘には、雨紅筆の歌や詩が刻まれています。

興慶寺には、梵鐘再建の縁をつないだところから、1970年に「ふる里と母と」の詩碑が建てられました。この詩は雨紅にとっても思い入れのあるものでした（本誌P 3、5参照）。

## 曲

市内では毎日どこにいても17時1分（10月から2月は16時）になると、「夕焼小焼」の曲が聞こえてきます。これは災害

時に市民に向けて発信される防災行政無線の機能点検のため、毎日行われている試験放送です。小中学生の帰宅を促すための音色として、市内に限らず全国の自治体で選ばれています。八王子市民にとって毎日決まっ

た時刻に流れるメロディは、まさにおなじみの曲です。

市内で1日中「夕焼小焼」が流れる場所といえば、八王子駅の発着ホームがあります。2005年12月25日から、八王子ゆかりの曲として、2番線から6番線まで、中央線・横浜線それぞれのホーム発着の際に使用されています。



▲心源院の梵鐘



▶興慶寺の梵鐘

# 碑

日本全国で「夕焼小焼」に關わる碑や梵鐘は全部で15基以上。ものの本によれば、特定の

単独作品に対する建碑の最高記録ともいわれ、八王子市をはじめ、作曲家草川信の故郷である長野県、雨紅が教鞭をとっていた厚木や日暮里などにも碑が建てられています。その碑のほとんどが雨紅の直筆で刻まれているのが特徴です。

市内にある「夕焼小焼」にまつわる碑として、最初に建てられたのは先述したように雨紅が存命の1956年、宮尾神社のものでした。

続いて観栖寺では、鐘の再建に合わせて「夕焼の鐘」の碑が建てられ、裏面に雨紅の歌「ふるさととはみな懐かしく温かし今宵も聞かむ夕焼の鐘」が刻まれています。宝生寺には、「夕焼小焼」の詩碑だけでなく、明治百年記念「夕やけ小やけの鐘」の碑があり、楽譜も刻まれています。



▲観栖寺の「夕焼の鐘」の碑



▲宝生寺の「夕焼小焼」の碑



▲宮尾神社の「夕焼小焼」の碑

## その他

「夕焼小焼」をイメージした彫刻作品もあります。鶴巻橋には1983年に「八王子」を象徴した彫刻が設置されましたが、そのなかの1つに橋本次郎作の「夕やけ小やけ」像があります。かすりの着物を着た小さな男の子と女の子が、赤とんぼを追いながら夕焼小焼の空を眺めています。

雨紅の実家、宮尾神社の麓に広がる「夕やけ小やけふれあいの里」では、その名の通り施設のあらゆるところに「夕焼小焼」という名前がつけられています（「はちとぴ」32号参照）。「夕焼小焼」バス停から向かう途中に架かるのは「夕焼小焼橋」。園内には中村雨紅の展示を備えた「夕焼小焼館」があるなど、まさに「夕焼小焼」一色です。

そのすぐ近くには中村雨紅（高井家）の墓地もあります。恩方では、いまでも「夕焼小焼」の面影が色濃く残っているのです。

▶鶴巻橋の「夕やけ小やけ」像



▼中村雨紅（高井家）の墓



# 焼スポット

## 8選



### ①平の渡し跡

【場所】平町  
秋の日の川面に染まる茜色



### ②長池公園 (夕陽展望台)

【場所】別所2丁目58  
黄昏の陽に照らされたニュータウン



### ③栃谷戸公園

【場所】みなみ野5丁目29  
見上げれば、谷戸の向こうに日が暮れる



### ④鶴巻橋

【場所】元本郷町  
橋上の松姫さまと茜空







⑥追分交差点

【場所】追分町  
冬至の日、甲州街道夕日射す



# 八王子の夕

八王子市内には、中村雨紅にゆかりの場所のみならず、夕焼がきれいな場所がたくさんあります。数ある場所から編集部が厳選して、8か所をご紹介します。他にもまだまだあるはずなので、あなただけのとおきの夕景を探してみてください。



⑥西寺方ゆうやけ台公園

【場所】西寺方町1019-326  
夏の午後、赤く染まった遊具たち



⑦南浅川橋

【場所】長房町、東浅川町  
陽の沈む橋の向こうの武蔵陵



⑧高尾山

【場所】高尾町  
赤映えにうっすら浮かぶ富士の山





# の市民団体紹介

応援します  
市民力。

市内で活躍する元気な団体・サークル・同好会を紹介するコーナーです。  
活動内容やイベント情報など、編集部までお知らせください。

◆連絡先：okiraku296tw@gmail.com  
090-1850-1788（平野）

## 夕焼け小焼けの会

地域を元気に、みんなも元気に

ふとしたきっかけで「NPO 21 世紀自然環境循環研究所」のメンバーとなった平野浩美さん。これまで環境問題に特化していた会の活動内容に障害者支援と地域活性化を加えて、理事就任に伴って、2021年4月に新たに発足したのが「夕焼け小焼けの会」です。

「社会との関係が希薄で、限られた社会の中で生活している障害者の方々に、ただ支援するだけでなく、自立して活躍できるように場を提供できないか」。そう考えた平野さんは、地域が元気になるという考えに至り、生まれ育った恩方地域、そして中村雨紅に目を向けるようになります。

2022年からは演奏者だけでなく、地域の障害者施設の方々も呼んで「夕焼け小焼け音楽祭」や「ホテルの夕べ音楽祭」などのイベントを開催し、恩方の魅力をアピールしてきました。

会のメンバーは5人という少数で、できることは自ずと限られてしまいますが、活動を通して知り合った方々と連携しながら次々と会の活動を増やしています。現



▲夕焼け小焼け音楽祭のようす

在は「坂田喜作ふるさと恩方」という会も立ち上げ、恩方の風景を描き続ける画家、坂田喜作さんの絵を預かって、グッズ作成や障害者支援施設への絵のレンタルなどを企画しています。さらには「夕やけ小やけふれあいの里」を、日本の童謡のふるさと”のような場所にできないかと思ひ描くなど、生まれ故郷、恩方の魅力を発信する夢は膨らむばかり。

「恩方の方々も巻き込んで、地域全体が盛り上がりつついていけるような仕組みを作っていきたい」と抱負を語る平野さん。恩方を元気にする取り組みに、あなたも参加してみませんか。

## 八王子で創業・起業をお考えの皆様へ



交流事業  
(仲間づくり)

『創業計画書』  
作成のお手伝い

起業に必要な  
知識と実務

会計・税務の  
基礎知識

資金繰り  
(融資/補助金)

当所では、創業・起業に関するあらゆる相談を受け付けています。  
創業・起業を検討されている方は、お気軽にご相談ください。



八王子商工会議所

創業・起業のご相談は… 八王子商工会議所 中小企業相談所

〒192-0062 八王子市大横町11-1 ☎042-623-6311 (平日9:00~17:30)

※ここは「はちとぴ」を応援して下さっている方々に自由に使っていただく  
フリースペースです。今回は「八王子商工会議所」です。